

特記事項

SPECIAL POINTS OF INTEREST

概要（図とグラフ）

主な知見と可能な対応

パート 1: 注目すべき点

パート 2: 薬物使用、その害と
影響

パート 3: 薬物政策の状況と対応

世界の薬物問題

共通の課題と地域ダイナミズム



© United Nations, June 2024. All rights reserved worldwide.

This publication may be reproduced in whole or in part and in any form for educational or non-profit purposes without special permission from the copyright holder, provided acknowledgement of the source is made. The United Nations Office on Drugs and Crime (UNODC) would appreciate receiving a copy of any publication that uses this publication as a source.

Suggested citation:, UNODC, World Drug Report 2024 (United Nations publication, 2024).

No use of this publication may be made for resale or any other commercial purpose whatsoever without prior permission in writing from UNODC. Applications for such permission, with a statement of purpose and intent of the reproduction, should be addressed to the Research and Trend Analysis Branch of UNODC.

DISCLAIMER The content of this publication does not necessarily reflect the views or policies of UNODC or contributory organizations, nor does it imply any endorsement.

Comments on the report are welcome and can be sent to: Research and Trend Analysis Branch
United Nations Office on Drugs and Crime PO Box 500 1400 Vienna Austria E-mail:
wdr@un.org

Website: <https://www.unodc.org/unodc/en/data-and-analysis/world-drug-report-2024.html>

まえがき

薬物の製造と不正取引における主要な進展を掘り下げ、薬物使用のパターンと関連する害を調査した UNODC の Flag Ship である World Drug Report の 2024 年版を発表できることを誇りに思います。

この包括的な World Drug Report の 2024 年版は、世界の薬物問題の絶え間なく進化する課題を明らかにし、違法な麻薬取引に関連する苦しみ、死、暴力の厳しい現実を描いています。

組織犯罪グループは、法の支配の不安定性とギャップを利用して薬物不正取引活動を拡大し、脆弱な生態系に損害を与え、人身売買などの他の形態の組織犯罪を引き起こしています。コカインの生産量は過去最高に達しており、ラテンアメリカでの生産量の増加に加え、ヨーロッパ、アフリカ、アジアでの薬物使用や市場の拡大も相まって、過去最高を記録しています。また、南西アジア、中近東、南東ヨーロッパでの覚醒剤・アンフェタミン不正取引の増加や、北米でのフェンタニルの過剰摂取など、合成薬物が人々やコミュニティに大きな害を及ぼしています。一方、アフガニスタンでは、事実上の当局があへん禁止令を発令した。これは、農民の生活や収入に大きな影響を与えており、持続可能な人道的対応が求められています。

今年の World Drug Report は、アフガニスタンでのあへん禁止の影響、薬物障害治療へのアクセスが限られている女性の間での合成薬物の無作為使用、ゴールドントライアングルにおける薬物取引と組織犯罪との関連性、大麻と幻覚剤に関する規制と立法の変更の概要に特化した特別な章を特集しています。

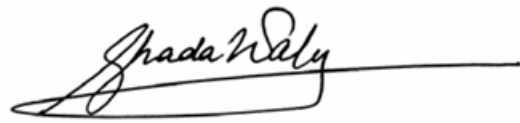
この World Drug Report の 2024 年版には、初めて健康と薬物使用の権利に関する章も含まれており、この権利の実現と進捗状況の評価に関する将来の議論の出発点となることを願っています。世界の薬物問題の影響を受けたあまりにも多くの人々、特に薬物使用に対する偏見や差別に直面し続けている女性たちが、健康への権利を否定されています。健康への権利はすべての人に普遍的であり、薬物を使用する人々は、コミュニティのすべてのメンバーとともに、その権利を享受しなければなりません。これは、包括的で、効果的で、自発的で、すべての人が差別なく利用でき、人々の尊厳を守る薬物治療、ケア、サービスを提供することを意味します。

World Drug Report の 2024 年版は、健康介入と並行して、違法薬物市場を対象としたより戦略的な司法介入を求めています。最新のデータによると、700 万人が薬物関連の犯罪で法律に触れていましたが、その 3 分の 2 は薬物使用または使用のための所持でした。司法の対応は、麻薬取引を煽る上で重要なトップレベルのアクターに焦点を当て、麻薬使用者の治療を支援しながら、取引業者に責任を負わせようとしている必要があります。

さらに、薬物経済を解体するための長期的な取り組みは、単に違法な作物や収入を代替えするだけでなく、貧困、開発不足、不安定さなど、違法な作物栽培の背後にある根本的

な構造的原因に対処する社会経済的機会と代替手段を提供する必要があります。

また、合成薬物使用のリスクが特に高い若者を薬物取引に引き入れる要因にも絞らなければなりません。これらのパターンと傾向に光を当てるにあたり、この World Drug Report の 2024 年版が、政策立案者、研究者、およびすべての利害関係者が、世界の薬物問題によってもたらされる課題に対処するための政策対応を形成し、行動を動員するための重要なリソースと証拠基盤として機能することを願っています。

A handwritten signature in black ink, reading "Ghada Waly", with a long horizontal line extending to the right.

Ghada Waly, Executive Director
United Nations Office on Drugs and Crime

概要

(図とグラフ)



薬物使用者，2022（百万人）

292
百万人

↑ 20%
10年間に



228
大麻



60
あへん系
麻薬



30
アンフェタミン類
(覚醒剤)



23.5
コカイン



20
エクスタシー

World Drug Report 2024, UNODC

薬物使用障害者，2022（百万人）

World Drug Report 2024, UNODC

64
百万人

↑ 3%
5年間(2018-2022)に

1 in 11
治療を受けている者



1 in 18
女性で治療を受けている者



1 in 7
男性で治療を受けている者



静脈注射による薬物使用者，2022

13.9
百万人

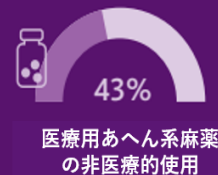
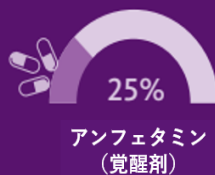
6.8 百万人 C型肝炎ウイルス
保持者

1.6 百万人 HIVウイルス
保持者

1.4 百万人 HIVウイルス+
C型肝炎ウイルス
保持者

World Drug Report 2024, UNODC

女性の薬物使用者の使用薬物，2022



世界全体ではなく一部の国のデータに基づく

World Drug Report 2024, UNODC

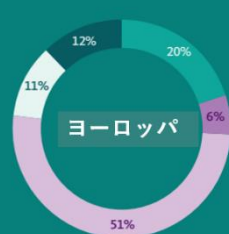
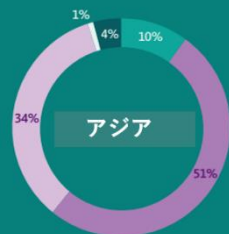
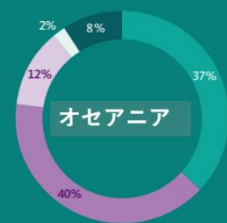
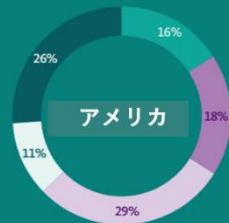
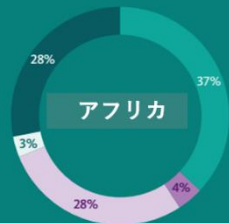
薬物障害で治療を受けた女性, 2022



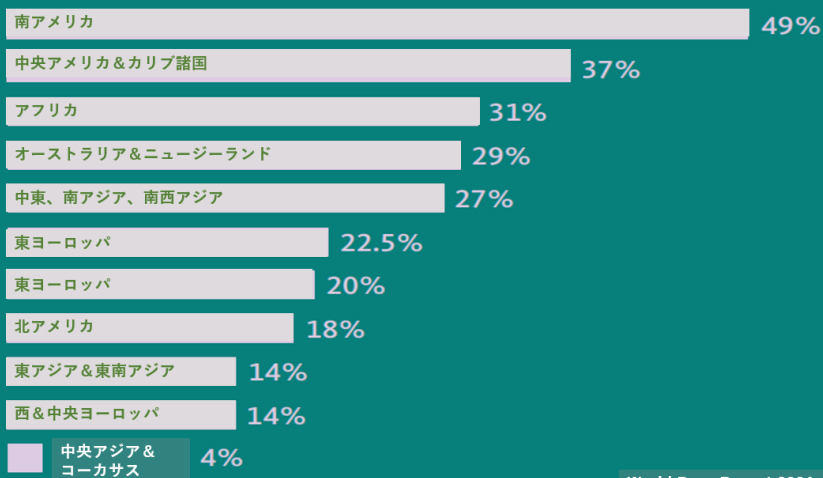
World Drug Report 2024, UNODC

薬物障害治療者の主要原因薬物, 2022

World Drug Report 2024, UNODC



25歳未満の薬物障害治療者, 2022



World Drug Report 2024, UNODC

世界の薬物原料植物の栽培

コカ

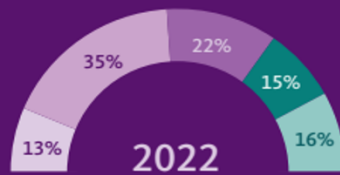
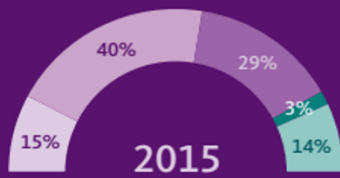


ケシ



World Drug Report 2024, UNODC

新規精神活性物質 (NPS)の世界市場

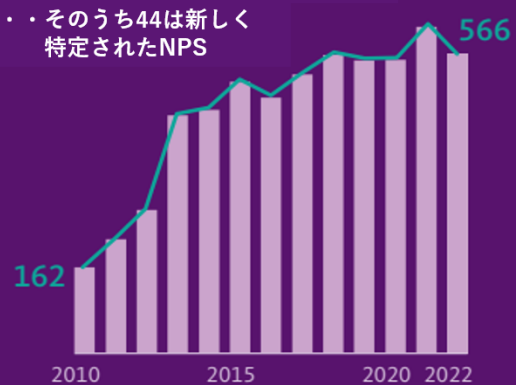


- 幻覚剤類
- 覚醒剤類
- 合成大麻類
- 合成オピオイド類
- その他のNPS

566

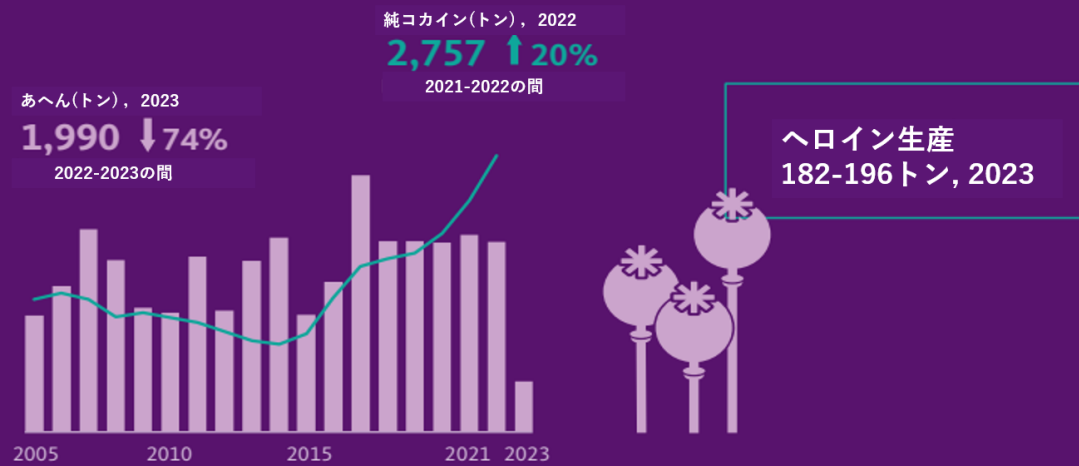
市場に出回ったNPS数, 2022...

...そのうち44は新しく
特定されたNPS



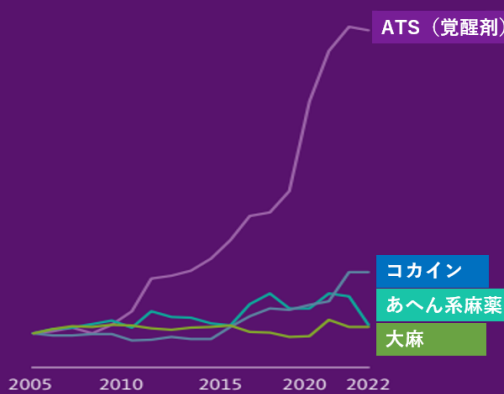
World Drug Report 2024, UNODC

世界のあへん系麻薬とコカインの生産



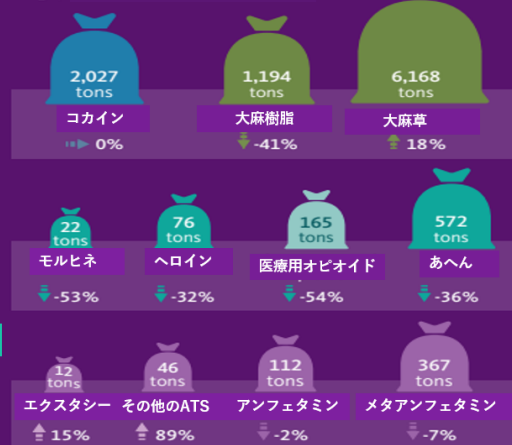
World Drug Report 2024, UNODC

違法薬物押収量の推移



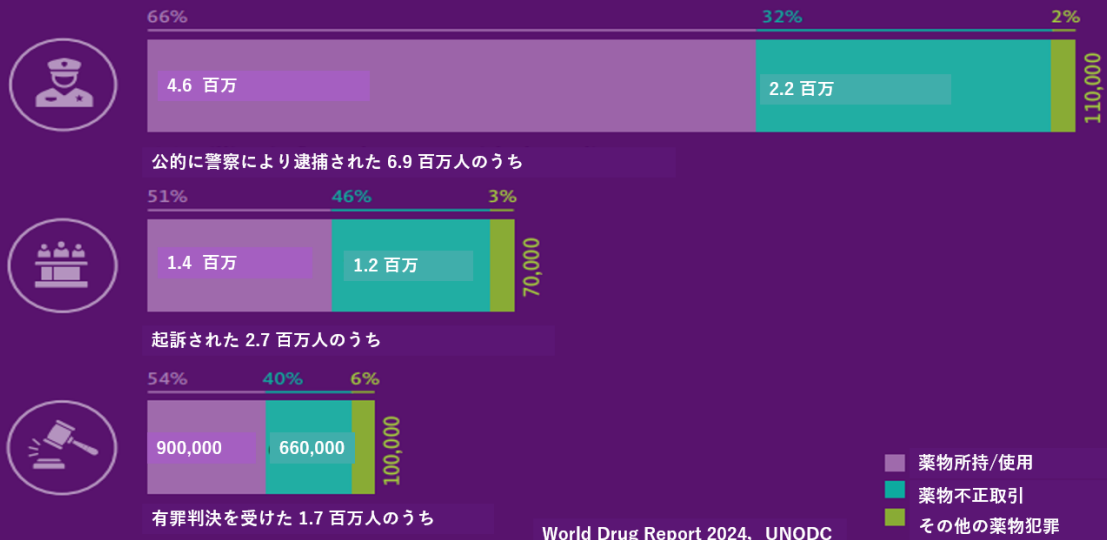
違法薬物押収量, 2022

前年からの変化

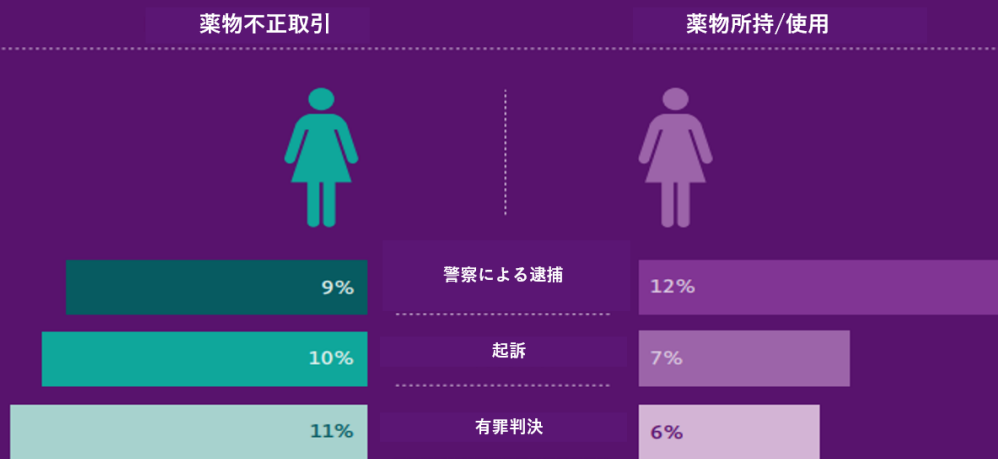


World Drug Report 2024, UNODC

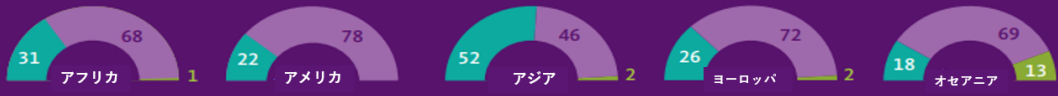
薬物犯罪により逮捕された者, 2022



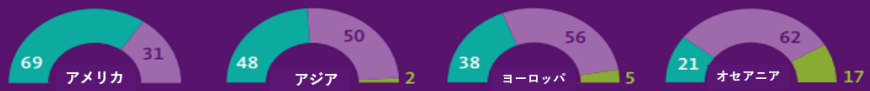
薬物犯罪により逮捕された女性, 2022



警察に逮捕された薬物犯罪の種類, 2022



起訴された薬物犯罪の種類, 2022



有罪判決を受けた薬物犯罪の種類, 2022

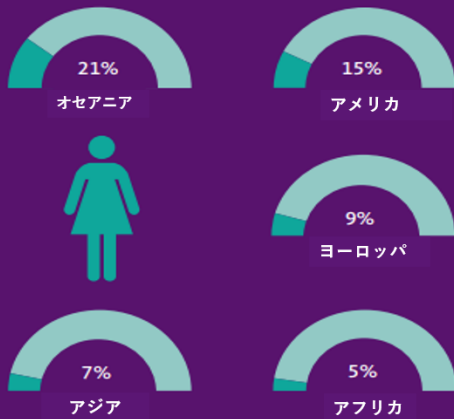


■ 薬物所持/使用 ■ 薬物不正取引 ■ その他の薬物犯罪

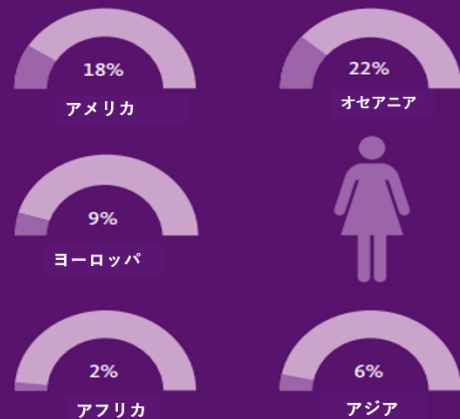
World Drug Report 2024, UNODC

薬物犯罪により逮捕された女性, 2022

薬物不正取引



薬物所持/使用



World Drug Report 2024, UNODC

KEY FINDINGS AND
POSSIBLE RESPONSES

PART 1:
WHAT TO WATCH?

主な知見と可能な対応

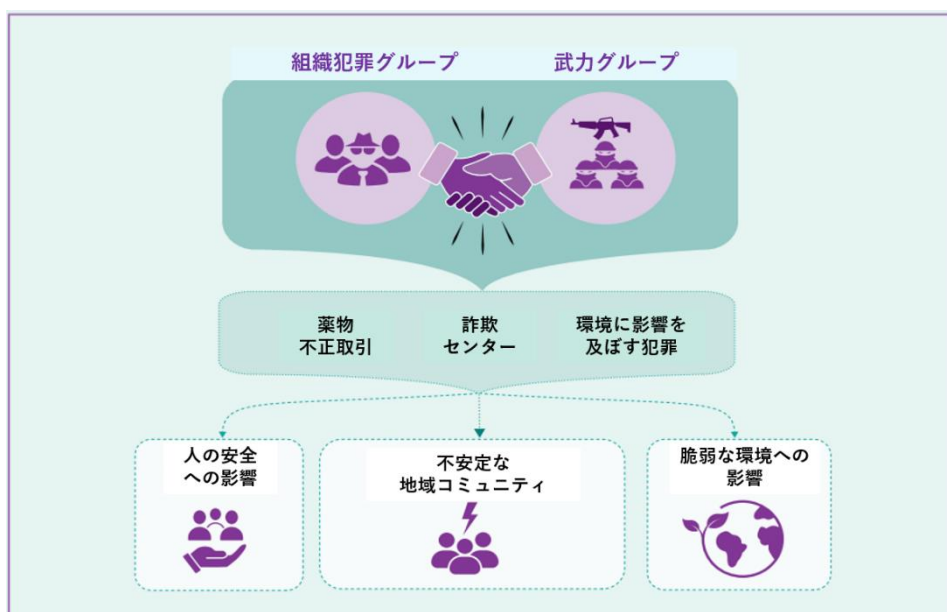
パート 1:
注目すべき点

主な知見と可能な対応

パート 1:注目すべき点

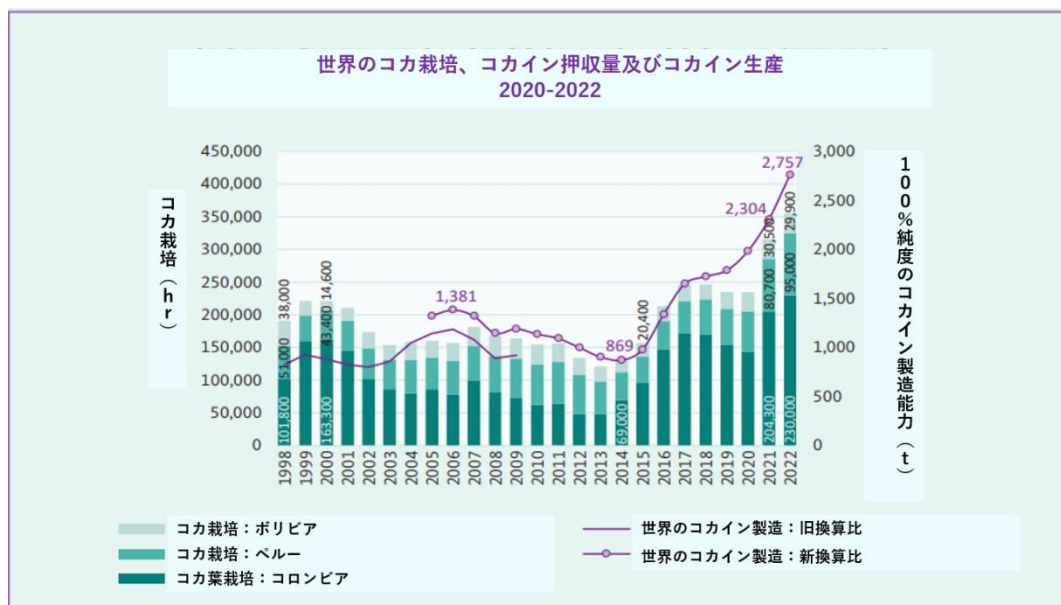
組織犯罪グループは、薬物の不正取引やその他の犯罪の実行に対する法の支配が抱える不安定性や問題点につけこんでいる

- » 東南アジアのゴールドトライアングルにおけるメタンフェタミン（覚醒剤）の生産は、近年急増しており、ヘロインやあへんなどの伝統的なあへん系麻薬の生産を上回っている。ゴールドトライアングルの武装グループは、違法行為を薬物製造以外にも多様化させ、オンライン犯罪やサイバー詐欺に関与している。経済特区は、犯罪企業や金融詐欺のホットスポットとして浮上している。
- » ラテンアメリカとアジアの一部の国境地帯は、人々を犯罪へ強制するための不正取引や環境に影響を与える犯罪、脆弱な生態系の破壊、地域社会への悪影響など、他の形態の犯罪に拡大をみせる薬物不正取引グループのハブとなっている。
- » コカインの不正取引や犯罪グループとギャングの競争に関連した驚くべきレベルの暴力が、ラテンアメリカ・カリブ海地域、また西欧諸国にも影響を及ぼしている。
- » アフリカでは、犯罪グループがコカインの経由地を求めてアフリカ大陸に目を向けているため、薬物不正取引や薬物使用に関連する害の影響がますます大きくなっている。
- » 合成薬物はどこでも生産できるので、その違法な製造は低所得国、中所得国、高所得国で拡大している。しかし、大規模な製造業は、依然アフガニスタン、メキシコ、ミャンマー、シリア・アラブ共和国など、ガバナンスに課題を抱える国・地域や不安定さの影響を受けている地域に集中している。



コカインの使用量は、その供給量が記録的高さになったことに伴い過去最高を記録した。

- » 2022 年、コカイン供給量は記録的高さになった。具体的には、2,700 トン以上のコカインが製造され、前年より 20%増加し、2013 年と 2014 年のレベルの 3 倍に増加した。
- » 西ヨーロッパと中央ヨーロッパではコカイン市場が拡大しており、特に北海の港を経由して、より多くのコカインがこの地域に密輸されるようになった。しかし、コカインの不正取引は、世界のほとんどの地域で行われている。
- » 主なコカイン密輸の流れは、アンデス地域から南北アメリカの他の国々、そして西ヨーロッパと中央ヨーロッパに向かう流れである。
- » コカインの不正取引は過去 10 年間で東方に拡大している。アジアの一部の国では近年、コカインの押収が著しく増えていると報告されており、この地域の一部の新興市場ではコカインの需要が増加している。
- » コカイン取引の影響は、エクアドルなどの国々でも顕著に見られる。近年、コロンビアからのコカイン密輸が増加し、これに関わる地元や国境を越えた犯罪グループが関連する致命的な暴力が相次いでいる。コカインの押収と殺人率は 2019 年から 2022 年の間に 5 倍に増加している。その割合が最も高いのは、コカインを北米とヨーロッパの主要な目的地市場への密輸のために使われた沿岸地域で報告されている。
- » コカインへの需要も高まっており、COVID-19 のパンデミックによる一時的な小康状態の後、コカイン使用に関するいくつかの指標が増加している。
- » コカイン使用が及ぼす害についての明確なエビデンスが、特に西ヨーロッパと中央ヨーロッパでますます増えている。入院患者数、「クラック」コカインを含む薬物障害の治療需要、死亡者数が増加し、同じようにコカイン使用の強度が増加している。すでに確立されている市場に加えて、アフリカやアジアの国々でも、コカインの使用とコカインに関連する害が増加しているというエビデンスが増えている。



アフガニスタンにおけるあへん市場は劇的に縮小している。これが、国内外での劇的な影響を及ぼす可能性がある

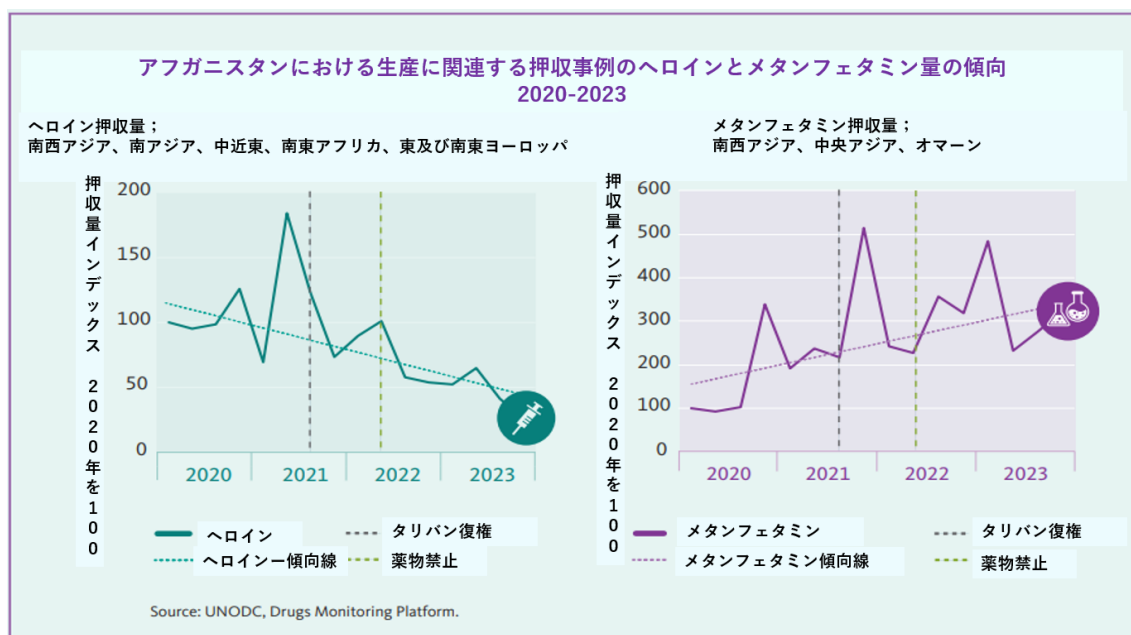
» アフガニスタンでは、2022年の薬物禁止令を受けて、あへんの栽培面積と生産量が2022年から2023年にかけて95%急落した。アフガニスタンは長い間、世界の違法あへん生産の大部分を占め、それはしばしば80パーセント以上であった。この禁止が続けば、アフガニスタンのあへん系麻薬の主要な目的地市場で不足が起こると思われる。

» この急激な減少は、アフガニスタンの脆弱な農村コミュニティに直ちに影響を及ぼした。収穫したあへんを業者に販売することで得られる農家の収入は、2022年の収穫の推定13億6,000万ドルから2023年の収穫では1億1,000万ドルに減少し、92%以上減少した。

» 予備的な観察に基づくと、2024年にはアフガニスタンのあへん生産量はわずかに増加する可能性があるが、禁止前のレベルにはほど遠いと思われる。また、アフガニスタン由来の既存のあへん在庫や、他国でのあへん生産の増加が、長期的にこの不足分を補うとは考えにくい。

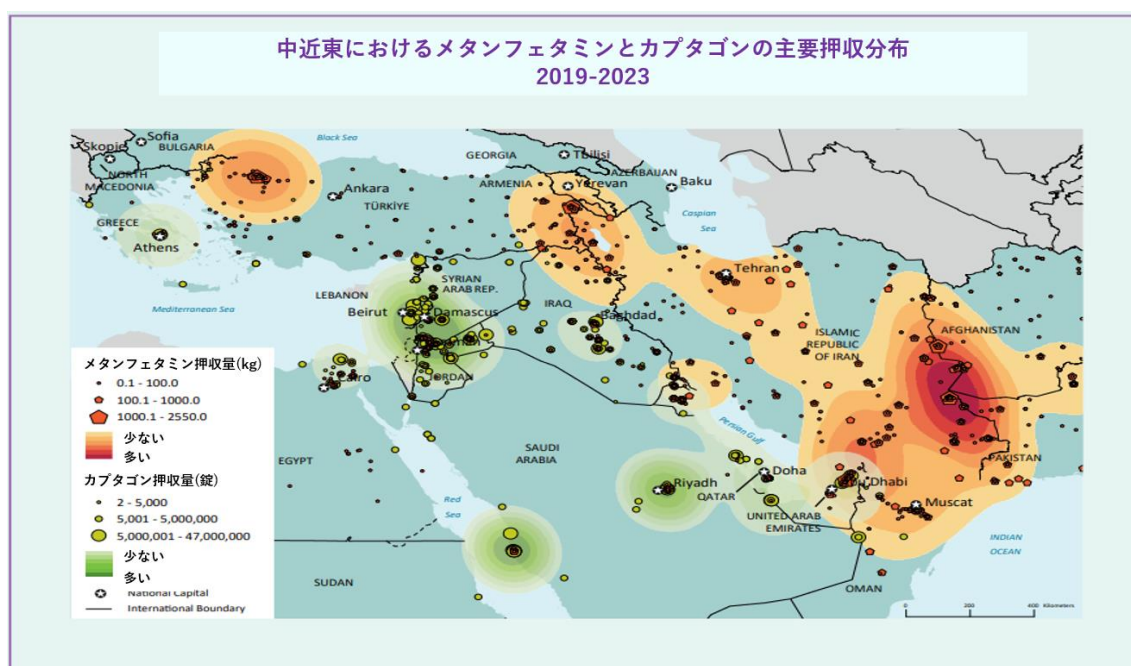
» その結果、ヘロインの入手可能性は低下すると予想され、需要市場では各国の状況に応じてさまざまな方法で調整が行われることが予想される。オピオイド系治療サービスの需要は高まると予想されているが、これらのサービスが不十分な場合、ヘロイン使用者は他のオピオイド系薬剤に切り替える可能性がある。これにより、より強力な合成オピオイドが新たに市場に登場し、過剰摂取のリスクを大幅に高める可能性がある。

» 2022年4月に発表された薬物禁止が、アフガニスタンのメタンフェタミン（覚醒剤）の生産と輸出にも影響を与えたかどうかは、あまり明確ではない。2023年末までに、近隣諸国での押収データ（ほとんどのメタンフェタミン（覚醒剤）が引き続きアフガニスタン由来と報告されている）は、メタンフェタミン（覚醒剤）の密輸の減速を示していない。



世界のメタンフェタミン（覚醒剤）押収件数は減少しているが、中近東と南西アジア市場は成長を続けている

- » アンフェタミン系覚醒剤(ATS)の世界的な押収は、歴史的に高い水準で推移している。2022 年はわずかに減少したものの、2023 年には一部の地域の予備データに基づく、数値は再び増加する可能性がある。メタンフェタミン（覚醒剤）は ATS 市場を支配し続けており、非伝統的な市場（従来の既存の市場ではない）での不正取引は増加している。
- » ATS の押収の増加のほとんどは、東アジア、東南アジア、南西アジア、そして主にオマーン湾、アラビア海、インド洋の海上で起こっている。
- » 近年の 2 つの最大の新興メタンフェタミン（覚醒剤）市場は、近東および中東/南西アジアと南東ヨーロッパである。
- » メタンフェタミン（覚醒剤）に加えて、中近東の「カプタゴン（別種の覚醒剤）」の市場は引き続き蔓延しており、2022 年の押収は 2021 年に記録した最高水準のままでとどまっている。南西アジアからのメタンフェタミン（覚醒剤）の密輸とレバントからの「カプタゴン」の密輸先は、近東と中東に集約されている。



新たな合成オピオイドの出現は致命的なリスクをもたらす

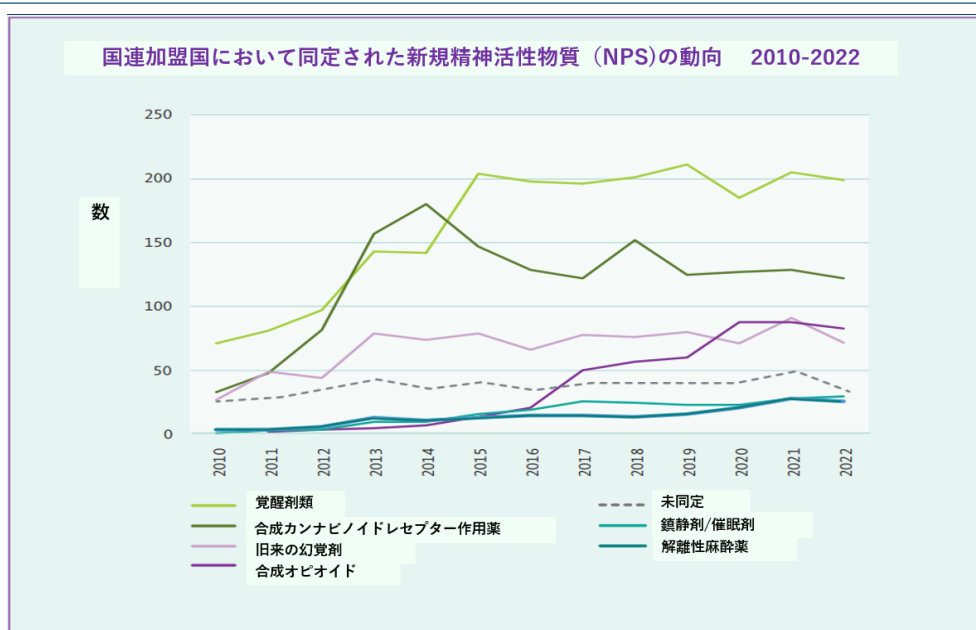
» 2022 年の新規精神活性剤 (NPS) の数は概ね安定しており、新たに特定されたオピオイド NPS の数はわずかに減少した。しかし、特に懸念されるのは、合成オピオイドのグループであるニタゼン*であり、場合によってはフェンタニルよりも強力であり、北米、西ヨーロッパ、南アメリカ、オセアニアの市場で広がっており、重大な健康リスクをもたらしている。

» 最近、高効力のニタゼンが出現し、一部の国でのニタゼンの使用による過剰摂取による死亡が増加していることは、これらの薬物の導入が公衆衛生と安全にどのように急速に悪影響を与えるかを示している。現在のニタゼンによる過剰摂取による死亡の波とアフガニスタンのあへん禁止を結びつける明確な証拠はないが、強力で有害なオピオイドのさらなる拡散の可能性は依然として懸念事項である。

* Nirazenes (ニタゼン) :合成オピオイドの一種 2-ベンジルベンズイミダゾール(またはニタゼン)オピオイドは、1950 年代に鎮痛剤として最初に開発されたが、非常に強力であることが判明したため、医薬品として承認または販売されることはなかった。2019 年以降、この薬物は米国、英国、その他のヨーロッパ諸国の違法薬物市場に再浮上している。

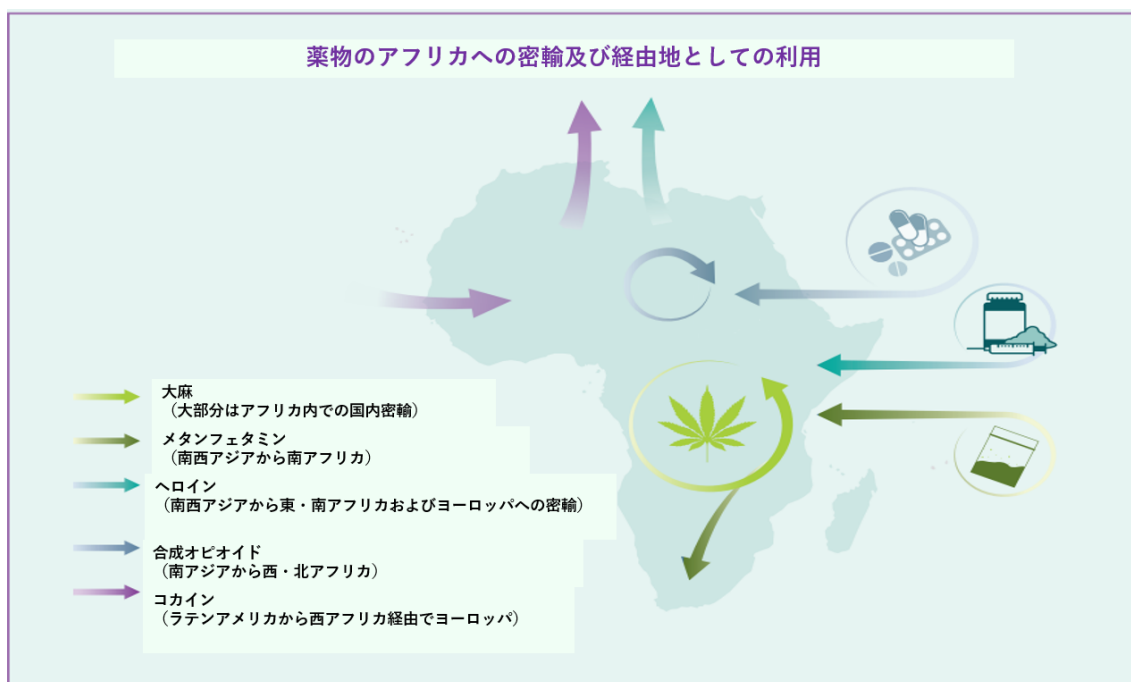
実験室で合成され、比較的安価に製造できるニタゼンは、モルヒネの数 10 倍から数 100 倍の効力があり、過剰摂取のリスクが高い。ニタゼンは構造的には他のオピオイドとは無関係であるが、ミューオピオイド受容体とも結合し、痛みを和らげ、多幸感とそれに続く眠気の原因を呼び起す。モルヒネやヘロインと同様に、ニタゼンも呼吸器系を抑制し、死に至る可能性があるが、ニタゼンの影響ははるかに低い用量で見られる。

The Pharmaceutical Journal (The Royal Pharmaceutical Society's Official Journal)



アフリカの国々は、薬物不正取引や新しい危険な薬物「カクテル」の使用の影響がますます大きくなっている

- » アフリカの国々は伝統的に主要な薬物密輸ルートの一部ではなかったが、犯罪集団はコカイン、ヘロイン、メタンフェタミン（覚醒剤）の積み替えのためにアフリカ大陸に頼ることが増えている。アフリカとの間のこれらの密輸は、過去 30 年間で明らかに増加している。
- » その結果、国際的な薬物不正取引が国内市場に波及し、薬物使用の害を悪化させている。定性的データによると、アフリカは大麻の使用が最も急速に増加している地域である。主にアフリカで見られるもう一つの典型的な薬物使用パターンは、国際的な管理下のないオピオイドである偽造トラマドールの非医療的使用である。
- » 以前はこの地域を通過するだけと信じられていたコカインは、そこでの使用が増えており、コカイン使用障害の治療を受ける者の数が増加している。一部の国では、コカインは、薬物障害治療において女性が乱用する主な薬物として最も一般的な薬物となっている。さらに、ヘロインについても、北アフリカ、東部、および一部の南部アフリカで、かなりの数の者がこの薬物による障害のための治療を受けている。
- » 「クシュ」、「カルコウビ」、「ニャオペ」などの名前と呼ばれる薬物混合物や調合物の使用も懸念されている。入手可能な限られた証拠によると、それらはしばしば、さまざまな違法薬物、ベンゾジアゼピンなどの医薬品、アルコール、溶剤など、多くの有害物質を含んでいる。



考えられる対応

何を見るべきか？

世界の薬物供給のダイナミクスの複雑さが増している－密売人の敏捷性を特徴付ける薬物、不正取引ルート、方法などの多様化・変化；薬物生産・不正取引と他の犯罪との相互関係；また、紛争状況に関与する非国家武装集団への薬物密売の機会の増大など；これらのことを考慮すると効果的な対応策を策定・実施するためには、包括的なアプローチが必要である。このアプローチには、いくつかの要素が必要となる。

» 国際組織犯罪へのより包括的に対処する：

以下の目的で、さまざまな機関を関与させる戦略を策定する。

- 薬物およびその他の違法経済の市場力学とそれらの交換可能性に影響を与える。
- 犯罪集団の形成、採用(特に若者の)および犯罪集団の国境を越えたつながりを把握し、対処する。
- 組織犯罪が生計を立てる地域やコミュニティ、特に紛争や脆弱な環境における支配を取り戻すための効果的かつ建設的な入口を見出す。
- 組織犯罪がガバナンス、法の支配、社会経済開発、環境、人権に与える影響についての理解を深め、それがもたらすと過小評価されることが多い広範な脅威を認識する。

» 社会経済的な代替案の提供：

貧困や選択肢の不足により、農家や薬物の小売販売に関与する人々など、薬物の供給チェーンの下層に従事する個人に対して、社会経済的な代替手段を提供する。これらの代替案は、単に作物や収入を置き換えるだけでなく、根深い貧困、低開発、不安定などの根本的な構造的原因に対処する必要がある。

» 法執行機関と刑事司法のリソースの戦略的計画：

薬物供給チェーンを持続的に解体するためのリソースに優先順位を付けて割り当てる。薬物供給チェーンにおいて簡単に置き換えることができる（切り捨てできる）低位の構成員に焦点を当てることで刑事司法のリソースが不均衡になっている場合、薬物取引に不可欠なトップレベルの個人やグループをターゲットにすることに焦点を当てるシフトが必要である。特に国境地域では、改善された戦略的分析、国際的な司法協力、汚職を減らすための努力、熟練した専門の法執行部隊の開発の使用も重要になる。

» 法執行機関における技術の進歩：

法執行機関と刑事司法制度が、薬物供給チェーンで使用される技術の高度化に見合った技術的スキルとリソースを保有していることを確認する。これには、新しい技術スキルと適切な機器の習得、および新規薬物と新たな健康上の脅威を特定するための適切な科学的テストと法医学的能力の維持が含まれる。

» 押収と法執行活動の理解を深める：

押収と法執行活動の影響と費用対効果を評価し、薬物供給の大幅な混乱に最も効果的につながる出荷とルートをターゲットとする作戦を確保する。密売人が押収を逃れようとする

る敏捷性を考えると、薬物やルートを単に移動・変更できるような方法ではなく、徐々に破壊されるような方法で作戦に取り組むことが重要である。そのためには、効果的な国際協力、情報共有への信頼、特に組織犯罪集団が支配する国境地域での共同作戦が必要である。また、早期警戒・監視システムも不可欠である。

KEY FINDINGS AND
POSSIBLE RESPONSES

PART 2:
DRUG USE HARMS
AND IMPACTS

主な知見と可能な対応

パート 2:

薬物使用、その害と影響

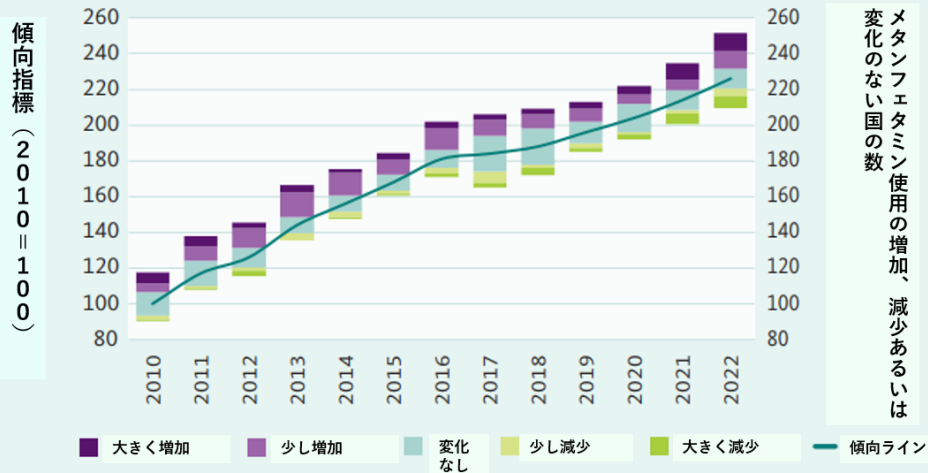
主な知見と可能な対応

パート 2：薬物使用、その害と影響

薬物使用は、覚醒剤の需要に後押しされて増加し続けている

- » 2022 年には、約 2 億 9,200 万人、つまり 18 人に 1 人が過去 1 年間に薬物を使用しており、これは 10 年前よりも 20%増加している。過去 1 年間に約 3,000 万人がアンフェタミンを使用し、6,000 万人がオピオイドを使用しており、そのうち約半数があへん系麻薬を使用していた。
- » 薬物使用の増加に寄与する要因は、COVID-19 パンデミック時の減少後のコカインや「エクスタシー」などの覚醒剤系薬物使用の復活である。
- » 薬物使用の有害な結果は無数にある。世界の疾病負担の最大の要因は依然としてオピオイド系鎮痛剤によるものであるが、大麻によって薬物治療を受ける人が増えている。新しい方法論に基づく新しい推計によると、2022 年には世界で 81 人に 1 人(6,400 万人)が薬物使用障害に苦しんでおり、これは 2018 年から 3%増加したことを示唆している。
- » 使用者（乱用者）が利用できる薬物の範囲が拡大し、使用パターンはますます複雑になり、ほとんどの薬物市場では多剤使用が共通の特徴となっている。
- » 2022 年には推定 1,390 万人が薬物を静脈注射で使用した。薬物を静脈注射で使用する者の HIV 感染するリスクは、薬物を静脈注射で使用しない者の 35 倍も高く、2022 年には薬物を静脈注射で使用する者の約 8 人に 1 人が HIV に感染していた。
- » 薬物の静脈注射での使用は、C 型肝炎の世界的な流行を促進する重要な要因であり続けている。世界保健機関(WHO)は、新たな C 型肝炎感染の 23%が安全でない薬物の静脈注射に起因すると推定している。薬物を静脈注射で使用する者のほぼ 2 人に 1 人が C 型肝炎に罹患しており、全体として、C 型肝炎に起因する肝疾患は、薬物の使用に起因する死亡の半分以上を占めている。
- » フェンタニルやその他の強力な合成オピオイドは、北米における薬物関連の高い死亡率に引き続き関連している。北米の薬物、特に合成オピオイド類の過剰摂取の危機的な状況は、10 年ぶりに前年比で増加した後、2021 年以降はほぼ一定であるが、オピオイド関連の死亡者数は依然として歴史的な高水準にとどまっている。

世界におけるメタンフェタミンの動向に関する定性的報告
2010-2022



Source: UNODC calculations based on UNODC, responses to the annual report questionnaire.

合成薬物は男女の性差を縮小し、より多くの女性に害を及ぼしている

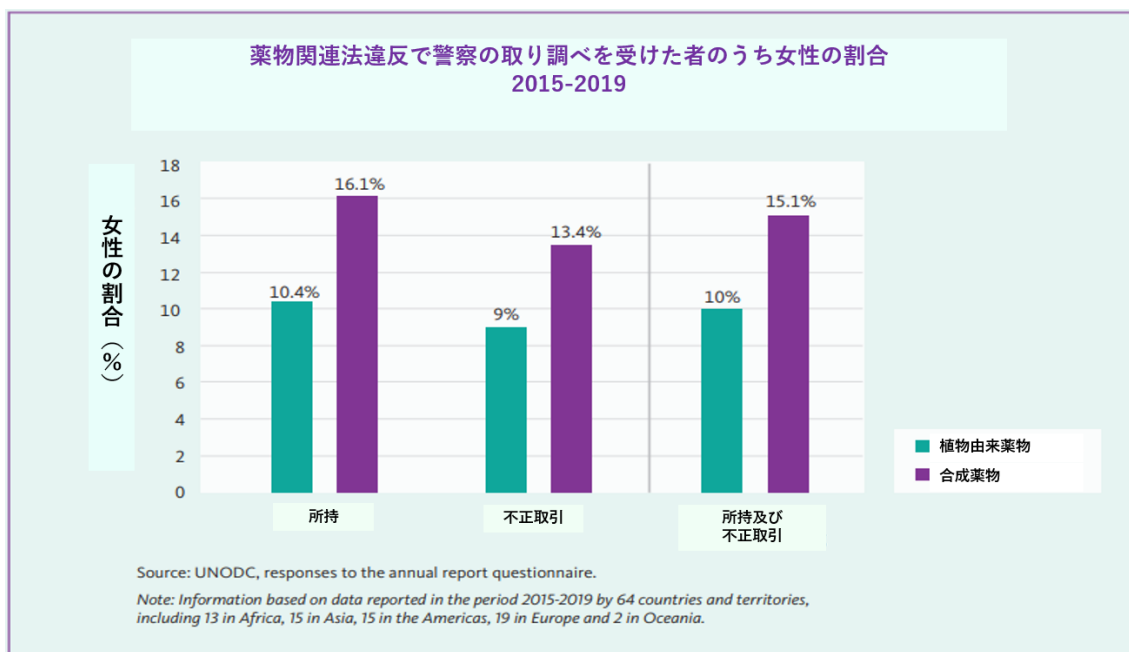
» 一般的に、男性は女性よりも薬物を使用する傾向が大きい。女性は、過去 1 年間に薬物を使用した者の約 4 人に 1 人を占めている。ただし、その割合は薬物や地理的な場所によって異なる。例えば、アジアでは大麻使用者のうち女性はわずか 9%であるが、北米では大麻使用者の 45%を女性が占めている。

» しかし、鎮静剤や精神安定剤、医薬品オピオイド、覚醒剤などの医薬品の非医療的使用に関しては、これらの物質（薬物）を使用する女性の割合は大幅に高くなり、場合によっては男性とほぼ同等になっている。

»薬物の不正取引には主に男性が関与しているが、合成薬物に関しては男女差が小さくなっている。薬物法違反で警察が正式に接触した者に関するデータによると、そのようなコンタクトを受けた女性の割合は、植物由来の薬物よりも合成薬物の方が全体的に高いことが示されている。これは、個人使用のための使用または所持と不正取引の双方に見られる。

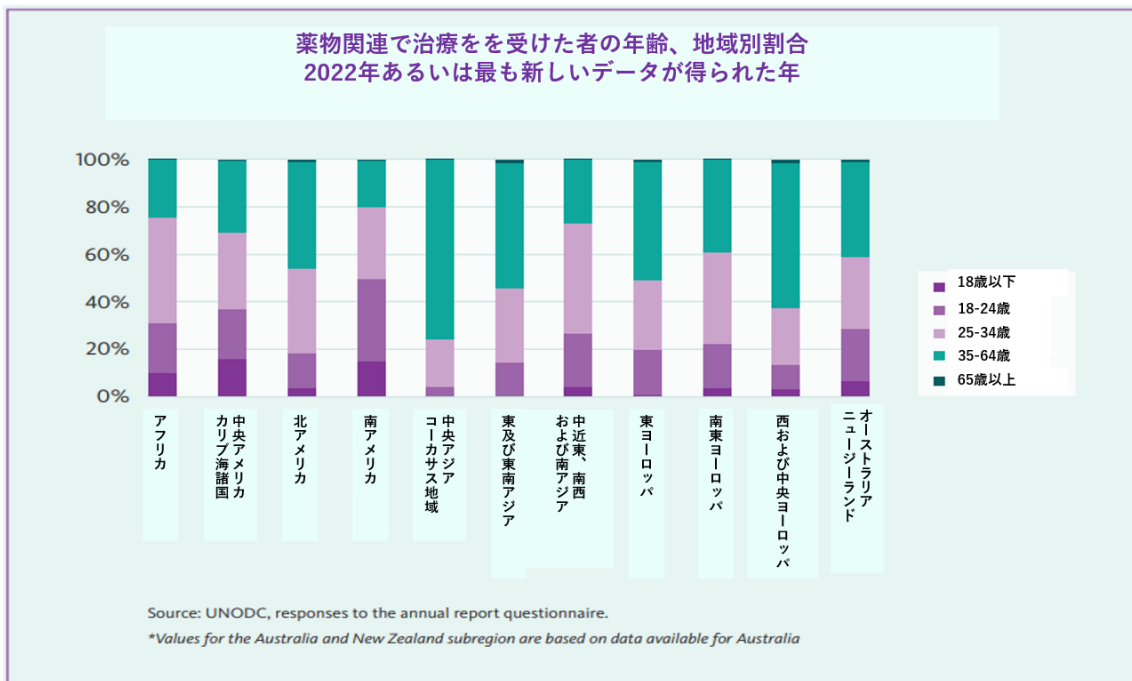
» 女性は薬物に手を染めると、問題のある薬物使用への進行が早く、男性より健康上の悪影響や社会的な負の帰結に直面することが多い。性別のデータが得られている国では、静脈注射による薬物使用者の約 5 人に 1 人が女性であり、静脈注射によって薬物を使用する女性は男性よりも HIV に感染している可能性が 1.2 倍高い。

» 女性はまた、薬物治療や保健サービスへのアクセスにおいて、意識の欠如、偏見・ステイグマ、性別に特化した施設の欠如、財政的制約など、多くの不均衡な障壁に直面する状況が続いている。



薬物送達の新しい手段が若者に悪影響を及ぼしている

- » 青少年の間での大麻の有害な使用が、多くの地域で依然として懸念事項となっている。北米の青少年の日常的な大麻使用は一定の状況に留まっているが、電子デバイスによる大麻の常習的使用が増加している。薬物使用が脳の発達に永続的な損傷を与える可能性のある青少年期という発達過程にある年齢におけるリスクについての懸念が高まっている。
- » カナダとコロラド州では、大麻使用に関連する入院患者、特に大麻による精神疾患や離脱症状が増加しており、若年成人がより大きな影響を受けている。大麻合法化後に電子媒体による喫煙（Vaping）や大麻濃縮物、食用大麻が入手可能になったことで、大麻による全体的な健康被害が増加した可能性がある。
- » さらに、若者、特に若い男性は、仲間の影響、新しい合成薬物への容易なアクセス、パフォーマンスの向上への欲求などの要因により、合成薬物使用のリスクが高いグループとして特定されている。
- » 違法薬物を購入する若者は、宅配やソーシャルメディアのプラットフォームを利用する傾向が強い。



考えられる対応: 薬物使用、その害と影響

薬物使用に対する多層的な対応

予防は、薬物使用に対する最前線での対応である。効果的な予防介入は、家族やコミュニティとのつながりの欠如、不安定さ、不安、トラウマ、未熟で劣悪な子育て、否定的な社会規範、仲間や家族の薬物使用、メンタルヘルスの問題、紛争、暴力など、薬物使用の一因となる根本的な状態に対処する。これらの要因に対処すると、薬物使用の開始と薬物使用障害への進行を効果的に防ぐことができる。薬物使用予防に関する国際基準は、エビデンスに基づいた、年齢や性別に適した予防介入を導くための科学的根拠を提供するものである。すべての年齢層が予防プログラムの恩恵を受けることができるが、子供や若者を優先することが重要である。発育・発達期である思春期は、脳の発達がまだ進行中であるため、物質（薬物）使用が開始されるピーク期である。

薬物使用に対する健康を基盤とした対応のもう一つの柱は、薬物使用による公衆衛生上および社会的悪影響を最小限に抑えることを目的とした措置を含む治療である。薬物使用障害は多面的であり、多くの場合、継続的なケアを必要とする再発性および寛解性の慢性疾患に似ている。科学的でエビデンスに基づいた薬物治療は、薬物使用障害を持つ人々の健康状態と生活の質を改善することが示されている。薬物使用障害の治療に関する国際基準は、薬物使用障害を持つ個人のための、さまざまなエビデンスに基づいた年齢および性別に適した介入とサービスについて詳しく説明している。

薬物使用に関連する害への対処には、過剰摂取の予防と管理、感染症の予防など、公衆衛生や社会への悪影響を効果的に防止し、軽減できる効果的な対策が含まれる。WHO、UNODC、UNAIDS の「HIV 予防、治療、静脈注射による薬物使用者のケアへの普遍的アクセスのための目標を設定するための各国向けテクニカルガイド:2012 年改訂版」は、これについての有用なツールである。さらに、HIV、ウイルス性肝炎、性感染症の予防、診断、治療、および主要な集団のケアに関する WHO 統合ガイドラインは、介入の包括的なパッケージを提供している。これらの介入が拡大され、十分に提供されれば、薬物使用者の HIV やその他の感染症の罹患率に大きな影響を与え、薬物使用者や静脈注射による薬物使用者における過剰摂取の予防と管理に役立つと考えられる。

また、薬物関連の治療やケアサービスを、刑務所収容者や最近釈放された者が利用できるようにすることも重要である。女性(特に妊婦)、子供、マイノリティグループ、農村に住む人々などの亜集団に合わせたサービスが確保されるべきである。偏見・スティグマや差別などのアクセスへの障壁を取り除き、薬物使用者が治療やケアに関連する諸々の決定に参加できるようにすることが重要である。

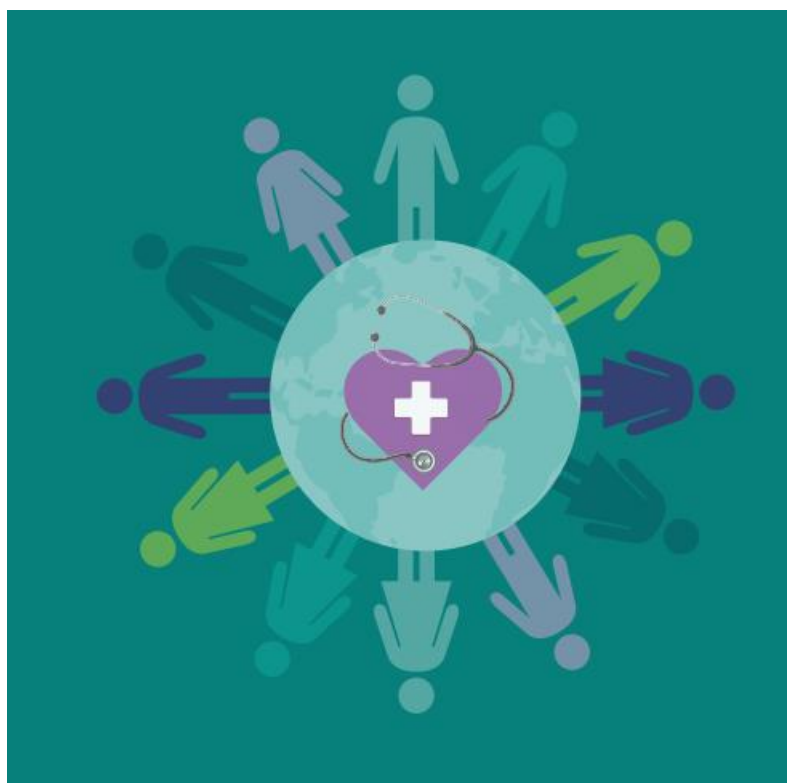
薬物使用者の周囲の人々の健康を守る

薬物使用に対して健康の観点からの対応を考える際には、子供や家族など、薬物使用者の周りの人々の健康ニーズを考慮することが重要である。薬物使用者、その家族、そして彼らのコミュニティの健康を守るためには、偏見・スティグマや差別から解放され、各個人の幸福を尊重し、向上させるアプローチが必要である。このアプローチは、薬物使用によって影響を受けるすべての人々を支援し、統合して実施されることが重要である。

薬物使用に対する”人権“の観点に基づくアプローチ

健康への権利というレンズを通して薬物使用に対処するには、利用可能で、アクセス可能で、受け入れられ、良質なサービスが必要となる。これらのサービスは、差別の禁止、偏見・スティグマの禁止、完全な参加、プライバシー、尊厳を確保しなければならない。

「World Drug Report」は、薬物使用に関わる健康への権利に関する多次元の枠組みを紹介している。これらには、可用性、アクセシビリティ、受容性、質、差別の禁止、偏見・スティグマの禁止、参加などの側面が含まれる。このような包括的なアプローチを採用することにより、薬物使用に対して、関係するすべての個人の権利と尊厳を尊重しながら、効果的かつ人道的に対処することができる。



KEY FINDINGS AND
POSSIBLE RESPONSES

PART 3:
DRUG POLICY LANDSCAPE
AND RESPONSES

主な知見と可能な対応

パート 3:

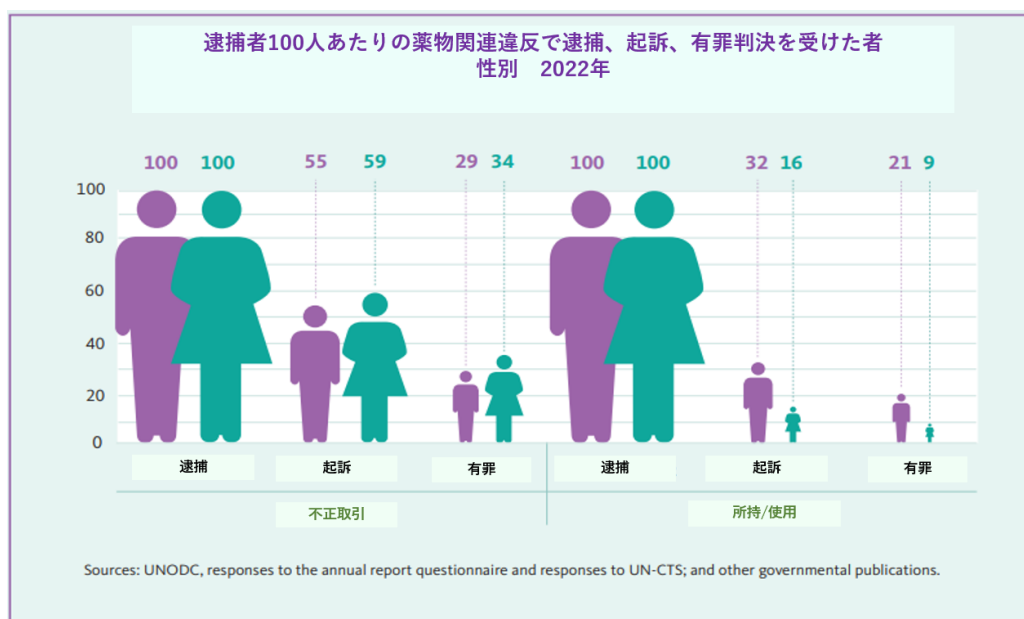
薬物政策の状況と対応

主な知見と可能な対応

パート 3；薬物政策の状況と対応

薬物の使用と所持は、最も多くの人々を法律に抵触させ続けている事例となっている

- » 2022 年には、世界で約 700 万人が薬物犯罪で警察により正式に接触を受け、そのうちの約 3 分の 2 が薬物使用または使用のための所持によるものであった。薬物犯罪で起訴されたのは半数以下(270 万人)、有罪判決を受けたのは 160 万人以上であった。
- » これには大きな地域差がある。世界レベルでは、薬物不正取引で逮捕された者は、薬物の使用や所持で逮捕された者よりも、そのような犯罪で起訴され、有罪判決を受ける可能性が高い。しかし、アフリカ(入手可能な限られたデータに基づく)やアジアなどの地域では、その逆が当てはまる: 薬物の使用や所持で逮捕された者は、薬物不正取引で逮捕された者よりも起訴され、有罪判決を受ける可能性が高い。
- » ヨーロッパは、薬物の不正取引や使用、所持で逮捕、起訴、有罪判決を受ける者の割合が最も高い地域である。南北アメリカ大陸は、薬物使用または所持犯罪で逮捕される者が人口 10 万人あたり 144 人で、その割合が最も高い地域の 1 つである。しかし、そのような犯罪の有罪判決率は、最も低く、ヨーロッパに次いで 2 番目である。これらの地域差は、多くの要因、特に薬物を使用する人口の規模と禁止の程度によって影響を受ける。薬物使用率と禁止率が高いと、刑事司法制度に入る者の割合が高くなる可能性がある。
- » すべての薬物犯罪を合わせた逮捕者のほとんどが男性であり、2022 年には約 10 人に 9 人を占めている。女性は、薬物不正取引で逮捕された者の約 9%、薬物の使用や所持で逮捕された者の 12%である。



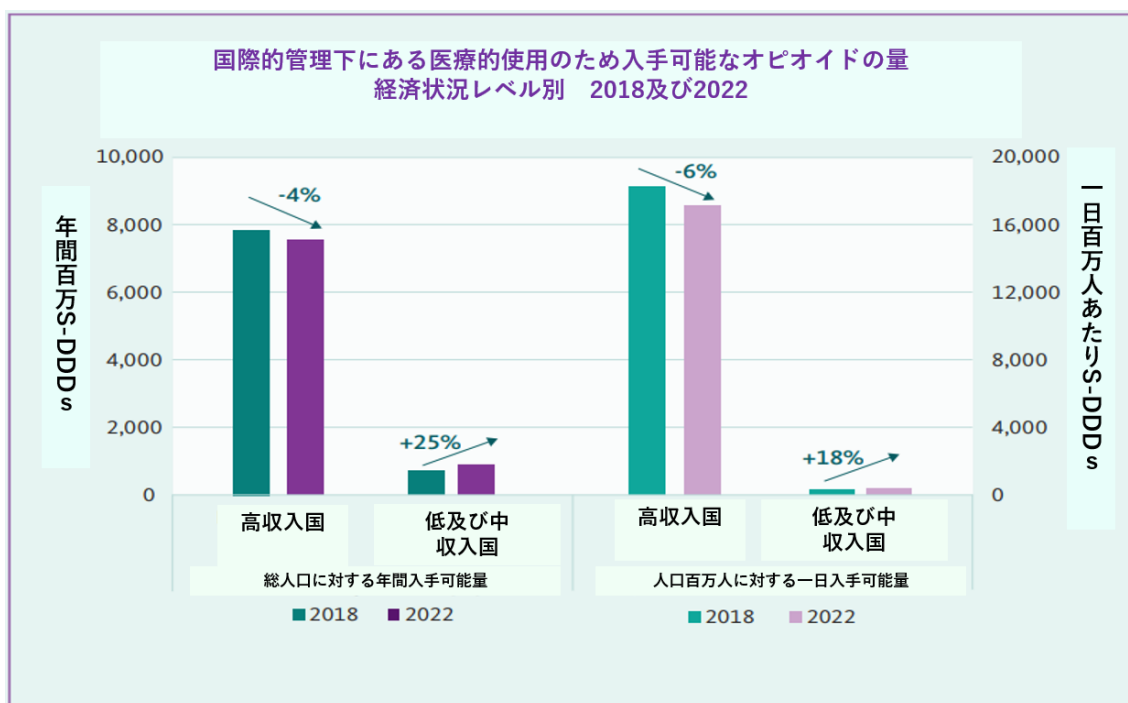
薬物使用障害を持つ多くの人々は治療を受けず、格差は広がっている

- » 新たに発表された推計によると、2022年に世界で薬物使用障害のある者で薬物治療を受けた者は、約11人に1人しかおらず、2015年から減少している。
- » 治療の格差が最も大きいのはアフリカとアジアで、2022年の薬物治療のカバー率はそれぞれ2.8%と5.1%であった。
- » 薬物関連治療のカバー率は、世界の5つの地域すべてで、女性の方の男性よりも低い。2022年には、世界で薬物使用障害を持つ女性の約18人に1人が治療を受けたが、男性の場合、その割合は7人に1人であった。

	治療範囲	主要薬物	紹介経路
アフリカ	2022年、薬物使用障害者の2.8%が治療を受けた	大麻が最も一般的、次いでオピオイド	最も一般的には、友人や家族からの紹介及び自己紹介
アメリカ	2022年、薬物使用障害者の10.7%が治療中 - 女性7.5%、男性13.1%	オピオイドが最も一般的、次いでATSと大麻	地域によって異なるが、他の医療サービスからの紹介が他の地域よりも一般的
アジア	2022年、薬物使用障害者の5.1%が治療中 - 女性1.9%、男性10.5%	アンフェタミン型覚醒剤が最も多く、次いでオピオイド	刑事司法制度が、照会の最も一般的な経路
ヨーロッパ	2022年、薬物使用障害者25.9%が治療中 - 女性13.6%、男性29.9%	オピオイドが最も一般的	最も一般的には、自己紹介と友人や家族からの紹介
オセアニア	2022年、薬物使用障害者の14%が治療中 - 女性12.5%、男性14%	アンフェタミン系覚醒剤が最も多く、次いで大麻	さまざまな経路での紹介

医療的使用のためのオピオイドの入手可能性は、グローバルサウスでは依然として限られている

- » 医療用の管理された医薬品オピオイドの入手可能性には、大きな不平等が残っている。世界人口の約 87%は、痛みの緩和とケアのための医薬品オピオイドを十分に入手できていない。
- » 過去 20 年間で、鎮痛薬としてだけでなく、オピオイド使用障害の治療におけるオピオイド作動薬としても使用される 2 つのオピオイドであるメタドンとブプレノルフィンの世界的な利用可能性に関して、いくつかの進歩が見られた。しかし、2019 年以降、医療用への利用可能性は世界レベルではほとんど変化がない。



薬物政策の変更は、さまざまな状況で複雑な課題を提示している

» ドイツにおける非医療の大麻使用のための大麻の社会的供給の合法化から、オレゴン州におけるすべての薬物タイプの所持に対する非犯罪化の撤回、アメリカ合衆国の一部の州での幻覚剤の「準治療的」使用まで、薬物合法化における最近の変化は、政策立案者が直面している複雑さを浮き彫りにしている。

» 2024年1月現在、カナダ、ウルグアイ、および米国の27の管轄区域で、医療以外の目的での大麻の製造と販売を許可する法的規定が制定された。最近、他の国、特にヨーロッパでも他の立法アプローチが出現している。ヨーロッパ諸国の中には、非医療目的での大麻への管理下でのアクセスが認められている国(ドイツ、ルクセンブルク、マルタ)もあれば、オランダ、スイスでは、非医療用大麻の供給モデルや流通モデルの影響をより深く解析するために、社会実験や試験を行っている。

» 非医療用大麻の供給チェーンが合法化されたカナダと米国の管轄区域では、入院や精神疾患に関するデータに示されているように、薬物の有害な使用が加速している。同時に、一部の管轄区域では、違法な大麻市場の規模が縮小しているように見え、米国では、人間格差が縮小し、全体として大麻関連の犯罪で逮捕される人の数と割合は減少している。

» 一方、さまざまな精神疾患の治療に、国際薬物条約で規制されているさまざまな幻覚剤の治療的使用に対する新たな関心が、主に高所得国での臨床試験の波を引き起こしている。進行中の医学研究の初期段階の結果は、政策の変更につながり、米国のいくつかの管轄区域で「準治療的」使用のための幻覚剤へのアクセスを許可しただけでなく、オーストラリアでは医療使用、カナダの1つの管轄区域では幻覚剤へのアクセスが許可された。

» 並行して、他のいくつかの開発が、幻覚剤の監督されていない「準治療的」および非医療的な使用への広範なアクセスの提供を促進するような環境へ、商業的関心が急増し、開発を促進している。このような幻覚剤に関する開発が科学的エビデンスを上回ると、医療使用に関するガイドラインを確立し、健康、社会福祉、生活の質の向上を図るという公衆衛生上の目標が損なわれ、幻覚剤の監督されていない使用に関連する健康リスクが増加する危険がある。

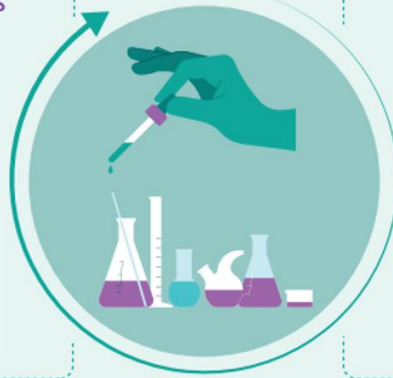
臨床的試み

マイクロドージング集団

メンタルヘルスとウェルビーイングのための幻覚剤の微量投与；監督なし、自己、準治療的使用

サイケデリック・ツーリズム

サイケデリックな体験ができる環境を提供するガイド付き転地旅行



サイケデリック集団

音楽と儀式(テーマフェスティバル)を通じて、幻覚剤を用いて心理的幸福と社会的つながりを促進

サイケデリック集団

幻覚剤の使用を通じて、科学研究だけでなく、文化的、哲学的、精神的な側面の促進

主な調査結果と可能な対応

パート 3：薬物政策の状況と対応

効果的な薬物政策の中核にあるのは、医療および科学的な目的での規制物質（薬物）の利用可能性と、同じ物質（薬物）が非医療用途に転用されるのを防ぐ努力とのバランスをとるといふ、国際薬物条約の精神である。世界の薬物問題に効果的に対処し、対抗するためには、真に包括的でバランスの取れた統合的なアプローチが必要である。薬物に関して科学に基づいた文化と認識を促進することは、不均衡に対処し、国際薬物条約の本来の目的である「人類の健康と福祉」を維持するのに役立つものである。事実に基づいた科学的根拠に基づく情報は、場合によっては疼痛管理のための管理されたオピオイドへのアクセスを妨げることもあるが、薬物依存症や薬物の非医療目的使用への転用の可能性を減らすことができる。同時に、若者が薬物使用に関連するリスクとその結果について十分な情報に基づいた評価を行うのに役立つ。



THE WORLD DRUG PROBLEM
COMMON CHALLENGE
LOCAL DYNAMICS

世界の薬物問題

共通の課題およびローカルダイナミクス



世界の薬物問題
共通の課題、地域のダイナミクス

大麻の不正取引と使用は世界中のすべての地域に影響を及ぼしているが、他の薬物問題は、地理的に異なる場所で追加的脅威をもたらしている

- コカイン
- オピオイド・あへん系麻薬
- 覚醒剤 (ATS)
- 静脈注射による薬物使用者のHIV



I 薬物別の現状

I 薬物ごとの現状（まとめ）1 大麻			
	需要	供給	主要課題
大麻	<ul style="list-style-type: none"> >大麻は、依然として世界で最も頻りに使用（乱用）されている薬物である。 >2022年には推定2億2800万人が大麻を使用した。これは世界の成人人口の4%に相当する。 >大麻を使用者（乱用者）数は過去10年間で28%増加した。 >大麻の使用は依然として北米で最も高く、2022年に15歳から64歳までの人口の19.8%が大麻を使用（乱用）していた。 >大麻は依然としてアフリカでの薬物による障害で治療中の大多数にとって懸念される主な薬物である。 >大麻使用者（乱用者）のうち女性の割合は地域によって異なり、アジアの9%から北米の45%まで幅広い(2022年)。 	<ul style="list-style-type: none"> >定性的評価によると、大麻栽培は2022年に長期的な増加傾向を続けなかったが、生産量は高止まりしている。2022年、屋外での大麻栽培が減少したと報じられている一方で、屋内での栽培は高い水準で定常状態にある。 >2020年まで続いた長期的な増加傾向に続き、大麻樹脂の押収は2021年に減少し、2022年にはさらに減少し、2017年以来の最低レベルにまで減少した。対照的に、大麻ハーブの押収は、2021年に減少した後、2022年にわずかに増加した。これは、北米のいくつかの管轄区域で合法化に向けた動きが進んだ結果、押収が大幅に減少したためである。しかし、他の地域での大麻ハーブの密売傾向は、2022年を含め、過去10年間で増加し続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> >大麻は、その高い使用率もあって、世界の薬物関連の害の多くの部分を占めている：世界の薬物使用障害の症例の推定41%が大麻使用障害である（2019年）。2022年には、約49%の国が大麻を最も多くの薬物使用障害に関連する薬物として報告し、38%の国が薬物治療を受ける者にとって懸念される主な薬物として大麻をあげた。 >いくつかの病状の治療においてカンナビノイドの有効性が示されているが、他の多くの状態については証拠が限られている。多くの国が大麻の医療使用に関する規定を設けているが、医療大麻に対する規制アプローチは国によって大きく異なる。 >2024年1月現在、カナダ、ウルグアイ、米国の27の管轄区域では、医療以外の目的の大麻の製造と販売を許可する法的規定が制定されている。他の立法アプローチが最近、各国、特にヨーロッパで登場している。マルタ、ルクセンブルク、ドイツでは、成人では非医療用大麻への管理下でのアクセスが認められた。しかし、これらの国では、非医療用大麻の商業供給チェーンはまだ確立されていない。

I 薬物ごとの現状（まとめ）2 オピオイド			
	需要	供給	主要課題
オピオイド	<ul style="list-style-type: none"> >2022年には世界で推定6,000万人がオピオイドを使用した。これは世界の成人人口の1.2%に相当する。その半数は南アジアまたは南西アジアである。 >2022年、オピオイド使用者（乱用者）のうち、推定3,000万人があへん系麻薬、主にヘロインを使用した。 >世界のオピオイド使用レベルは2017年から2019年の間にわずかに増加した。2020年から2022年にかけてはほとんど変化がない。 >2022年、薬物治療者の約36%が、主な使用薬としてオピオイドを挙げている。 >オピオイドは依然として最も致命的な薬物グループであり、薬物に直接関連する死亡の3分の2を占める（主に過剰摂取）。 	<ul style="list-style-type: none"> >2023年の世界のケシ栽培面積は、主に2022年4月のタリバンによるあへん禁止令によりアフガニスタンで95%減少した結果、2022年と比較して70%減少した。同様に、世界のあへん生産量は2023年に74%減少した。 >ミャンマーが2023年、世界最大のあへん生産国として浮上し、世界全体の54%を占めた。一方、アフガニスタンは17%を占めるに留まった(2022年の82%から減少) >バルカンルートは依然としてあへん系麻薬の主要な密輸ルートである。全体として、アフガニスタンのあへんに関連するヘロインの押収は2022年に減少したが、これはおそらく麻薬密売人があへん禁止が価格に与える影響を予測し、在庫を積み上げたためと考えられる。同時に、中央アジアとトランスコーカサス地方でのヘロイン押収の増加は、北部ルートでの密売の増加を示唆している。 >2021年に急増した医薬品オピオイドの押収は、2022年には2020年に報告されたレベルに減少した。ただ、この減少は、押収の長期的な増加傾向には影響していない。 	<ul style="list-style-type: none"> >近年、オピオイドの使用は一定に保たれているが、オピオイドの非医療的使用の2つの流行、1つは北米でのフェンタニルに関連するもの、もう1つは北アフリカ、西アフリカ、中近東、南西アジアでのトラマドールの非医療使用に関連するものであり、これらの流行は、引き続き重大な健康リスクをもたらしている。 >北米では、COVID-19のパンデミック時にフェンタニルの使用による過剰摂取による死亡が前例のないレベルに達し、2022年も高い水準で推移する状況が続いている。 >2023年のアフガニスタンでのあへん生産の劇的な減少があったが、禁止令の施行が長期にわたって続けば、地域外の消費市場に影響を与える可能性がある。 >疼痛管理と緩和ケアのための医薬品オピオイドへのアクセスは、低中所得国と高所得国の間で大きく異なる状況が続いている。

Ⅰ 薬物ごとの現状（まとめ）3 コカイン

	需要	供給	主要課題
コカイン	<ul style="list-style-type: none"> >2022年、世界で推定2,350万人がコカインを使用（乱用）した。これは、世界の成人人口の0.45%に相当する。 >南北アメリカと西および中央ヨーロッパは、依然としてコカインの2つの主要な消費者市場である。 >アフリカとアジアでのコカイン需要は過去20年間で増加しているが、地域ごとの需要は依然として不均一であり、データの欠如により、これら2つの地域の使用レベルを明確に理解することはできない。 	<ul style="list-style-type: none"> >コカイン製造レベルは2022年に過去最高の2,757トン（純粋なコカイン）に達した。 >コカイン製造の増加が続いているのとは対照的に、2022年のコカイン押収件数は高水準であるが、一定の状態に変化が少ない。また、南米の生産拠点到近接して押収されるケースが増えており、南米では現在、押収された総量が北米の4倍に上っている。 >コカインは、主に海上より広い地域のルートで密輸されており、近年押収されたコカインの量の80%以上が海上密輸に関連している（2022年には86%、2023年には90%以上に上昇した）。 	<ul style="list-style-type: none"> >COVID-19のパンデミックによる中断の後、コカインの世界市場は拡大を続けている。過去10年間で世界中で使用量が増加し、供給も増加しており、コカイン製造は過去最高を記録した。 >コカイン市場は、北米と西ヨーロッパの伝統的な市場からアフリカとアジアへ拡大している。 >新たなコカイン密売拠点が出現し、世界的な供給におけるアフリカの役割が高まっている。

Ⅰ 薬物ごとの現状（まとめ）4 覚醒剤（ATS）

	需要	供給	主要課題
覚醒剤ATS	<ul style="list-style-type: none"> >2022年には世界で推定3,000万人がアンフェタミンを使用（乱用）した。これは、世界人口の0.6%に相当する。 >質的評価から、2022年、アンフェタミンの使用（乱用）の増加が示唆されている。また過去10年間で増加している。 >アンフェタミンの使用（乱用）経験率と使用者（乱用者）数は東アジアと東南アジアで最も高く、次いで使用者（乱用者）が多いのは北米である。 >2022年には、世界で推定2,000万人が「エクスタシーMDMA」タイプの物質（薬物）を使用（乱用）した。これは、世界の成人人口の0.4%を占める。 	<ul style="list-style-type: none"> >2021年に過去最高のアンフェタミン系覚醒剤（ATS）が押収された後、2022年の押収件数はわずかに減少したものの、依然として歴史的な高水準に留まっている。世界レベルでは引き続きメタンフェタミンが主流である。 >ATS、特にメタンフェタミンの密輸は地理的に広がり、これまで見られなかった市場での顕著な拡大が観察されている。 >中近東では「カプタゴン」の市場が拡大を続けており、その押収量は2022年も2021年に記録した過去最高の水準を維持している。 >2021年までの数年間、押収データからメタンフェタミンの製造は、1-フェニル-2-プロパノン(P-2-P)の前駆体の使用にシフトし、エフェドリンとブソイドエフェドリンの使用は減少していることが示唆されていたが、後者の2つの物質の使用は依然として広く普及していた。しかし、2022年の押収データでは、この傾向が逆転し、P-2-P関連の押収は急激に減少した一方、エフェドリン関連の押収は一定の状況が続いており、メタンフェタミン当量で表される総押収量の79%を占めている。 	<ul style="list-style-type: none"> >薬物障害治療における男女格差は、覚醒剤（ATS）を使用する女性にとって特に深刻である。女性はアンフェタミン使用者の4人に1人を占めているが、ATS使用障害の治療を受けている女性は男性よりも重篤な症状を呈し、男性よりも小児期の不幸な経験が多いなど、心理的負担が大きい。さらに、メタンフェタミンを使用する女性は、男性と比較して、リスクの高い性行動をとる傾向が高く、HIV、ウイルス性肝炎、その他の感染症に感染するリスクが高い。 >メタンフェタミンの製造と使用（乱用）は、薬物の従来の市場である東アジア、東南アジア、北米を超え広がりを続けている。特に南西アジア、中近東、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカに広がっている。 >アフガニスタンでのメタンフェタミンの使用（乱用）と製造が増加しており、この地域を超えてメタンフェタミンの不正取引が拡大している南西アジアでの懸念が高まっている。

I 薬物ごとの現状（まとめ）5 新規精神活性物質（向精神薬）NPS			
	需要	供給	主要課題
新規精神活性物質 NPS	<ul style="list-style-type: none"> > 新規精神活性物質（向精神薬 NPS）の使用（乱用）は、国際的な規制下にある薬物の使用（乱用）レベルよりも低い。 > 2021年、NPSは世界のほとんどの国で使用（乱用）されている。 > NPSの多くのユーザーは、知らず知らずのうちにそれらを使用し、不純物として、または他の薬物の代わりにこれらの薬物を使用し、時には致命的な結果に至る。 > 限られた入手データから、最も一般的に使用（乱用）されるNPSは合成カンナビノイド受容体作動薬（「合成カンナビノイド」）とケタミンであることが示されている。 > 一般集団の大規模なグループで使用されている新規NPSには、北米のΔ8-THCやヨーロッパのHHCなどの半合成カンナビノイドが含まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> > クラトムとカートを中心とする植物ベースNPSの押収は、2022年も40%以上減少し続け2004年以降の最低レベルに達し、2019年のピーク時より96%減少した。2022年の減少は主にクラトムの押収量の減少による。 > 2020年と2022年の間、合計52か国が合成NPSの押収を報告し、10年前の43か国から増加した。これらの押収は小規模であるが、最も多くは、ケタミン（2022年に大幅に増加）、次に合成カチノンとカンナビノイドが占めた。 > 市場に出回っているさまざまなNPSの数は2021年に特定された618から2021年には566に減少した。そのうち44は初めて特定されたものであった。市場に出回っているほとんどのNPSは覚醒剤（特にカチノンと、程度は低いフェネチルアミン）であり、次に合成カンナビノイド、合成オピオイド、幻覚剤であった。 > NPSオピオイド以外のほぼすべてのカテゴリーのNPSで前年比の減少が告された。一方、市場に出回っているフェンタニル類似体の数は2022年は定常状態が続いたが2023年には減少した。しかし、特に懸念されるのは、合成オピオイドの別のグループであるニタゼンの出現である。 	<ul style="list-style-type: none"> > 薬物の規制管理システムは、高所得国ではNPSの蔓延を封じ込めに成功しているが、NPSの密売の地理的範囲は拡大し続けている。 > 東ヨーロッパや中央アジアなど一部の地域では、NPSが大きな問題となっている。 > ケタミンは、東アジアと東南アジアでまだ最も供給され、使用されている薬物の一つである。そして、西ヨーロッパと中央ヨーロッパ、オーストラリアを含む他のいくつかの地域に広がり始めている。この薬物は、それ単独で、または薬物混合物の一部として使用され、ユーザーは、その含有量はほとんど知らない。 > 最近、北米や西ヨーロッパ、中央ヨーロッパで、フェンタニルよりも強力なニタゼンによる死亡が報告されている。

II 地域別の現状

II 地域ごとの現状（まとめ）1 アフリカ			
	需要	供給	主要課題
アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> > 大麻の使用（乱用）は西アフリカと中央アフリカで特に高く、2022年の過去1年間の使用経験率はほぼ10%（3,100万人）であり、これは主にナイジェリアでの大麻使用の経験率を反映している。 > 2022年のオピオイド使用（乱用）の推定経験率（1.3%）もこの地域で高い。トラマドールの非医療的使用は、特に北、西、中央アフリカで依然として脅威となっている。 > アフリカの他の地域のオピオイド使用者（乱用者）の大多数はあへん系麻薬使用者であり、主にヘロインである。いくつかの国ではコカインとあへんが乱用されている。 > コカインの使用（乱用）は、大陸全体、特に西アフリカと南部アフリカで増加しているようである。（関連データは乏しい） > 植物ベースのNPSであるカートの使用（乱用）は東アフリカで広がっているが、南部アフリカでは合成NPSの使用（乱用）が最も一般的に報告されている（両方の事例に関するデータは乏しい） > アフリカで静脈注射による薬物使用者（乱用者）137万人のうち、166,000人（12.1%）がHIVに感染している。この地域内では、西アフリカと中央アフリカが静脈注射による薬物使用経験率が最も高く（0.23%）、静脈注射による薬物使用者のHIVの罹患率は南部アフリカが最も高い（22.3%）。 	<ul style="list-style-type: none"> > 北アフリカは、西ヨーロッパへの大麻樹脂密輸のハブになっている。 > アフリカは、トラマドールの非医療的使用が多い。これは、2018年から2022年の間に世界中で押収された医薬品オピオイドの量の44%を占める。 > アフリカでは、ほとんどのコカインは海岸部近くで押収されている。この地域、特に西アフリカは、南アメリカからヨーロッパに向かうコカインの積み替えエリアとして使用されている。 > 南西アジアからのヘロインは、アフリカのすべての亜地域、多くの場合、東アフリカを経由の入り口として、アフリカの他の市場や西ヨーロッパと中央ヨーロッパの消費者市場へと密輸されている。 	<ul style="list-style-type: none"> > アフリカは薬物使用（薬物乱用）の男女差が大きく、大麻を使用（乱用）している女性は男性の1/9未満である。 > アフリカで薬物使用障害の治療を受けている者の大多数は35歳未満である。 > 大麻とオピオイドは、アフリカで治療を求めるとほとんどの薬物使用障害者の主要薬物である。 > アフリカは依然として西アフリカのヘロインおよび主にこの地域で生産される大麻などの薬物の主要な不正取引地域である。 > トラマドールの非医療的使用に関連するオピオイドの流行により、西アフリカ、中央アフリカ、北アフリカでトラマドール使用障害の治療需要が増加しており、重大な健康リスクをもたらしている。 > 2022年、西アフリカと中央アフリカでは疼痛管理と緩和ケアのための薬物使用は、人口100万人あたり平均15標準薬物日投与量であり、極めて低い。国際的に管理された医薬品へのアクセスが最も低い亜地域となっている。 > 西アフリカと中央アフリカでは、静脈注射による薬物使用（乱用）の高い経験率が依然として問題であり、南部アフリカでは、静脈注射による物使用者（乱用者）の高いHIV罹患率が特に懸念されている。 > ニャオベ、最近ではカルコウビやクシュなどの薬物混合物や調合薬の使用が新たに増えており、一部のアフリカ諸国では公衆衛生に対する脅威が高まっている。これらの製剤の組成を使用者はほとんど知らない。限られたものではあるが違法薬物、医薬品（ベンゾジアゼピンなど）、アルコール、溶剤など、多くの有害物質が含まれていることを示す証拠がある。

II 地域ごとの現状（まとめ）2 アメリカ			
	需要	供給	主要課題
アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> >北米でのオピオイド使用（乱用）は依然として高く、2022年、成人人口の2.7%が過去1年間の使用(900万人)を報告している。 >南アメリカ、中部アメリカとカリブ海地域は、世界でもコカイン乱用による障害で薬物治療を受けている者の割合が最も高い亜地域である。 >医薬品覚醒剤の非医療的使用は、南北アメリカが他の地域よりも高い。 >過去10年、北米、特にメキシコでは、メタンフェタミンによる障害の治療を受けている者の数が大幅に増加している。 >北米では静脈注射による薬物使用者（乱用者）の割合が高く、2022年には人口の1.0%(340万人)が薬物を静脈により乱用したと推定されている。しかし、HIVの推定罹患率(7%)は、世界の薬物静脈注射使用者の平均をはるかに下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> >北米では、大麻の禁止の優先順位が低くなっているため、大麻市場が急速に成長している一方、大麻の押収は大幅に減少している。 >南米でのコカインの製造は、2022年に過去最高の2,757トン(純粋なコカイン)に達した。 >コカインの押収は南米の生産拠点近くにシフトしている。南米で押収されたコカイン総量は現在、北米の4倍である。 >北米で製造されているメタンフェタミンのほとんどは、その亜地域内で消費される。押収データから、密造所の数は減少している可能性が高いものの、密造所の規模が大きくなり、メタンフェタミン生産量は増加していることが示唆される。 >北米でのメタンフェタミンの押収は、2021年に過去最高に達したが、2022年には減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> >北米における違法に生産されたフェンタニルに関連するオピオイド乱用が蔓延し、過剰摂取による死亡者数は過去最高となった。COVID-19のパンデミック時の2021年と2022年には前例のないレベルにまで加速した。 >大麻使用（乱用）におけるジェンダーギャップは、大麻使用（乱用）レベルが特に高い北米で縮小しつつある。 >南北アメリカは、南米における記録的なレベルのコカイン製造にともなって、コカイン密売が増加している。 >違法薬物経済、収斂する犯罪、人口移動、紛争は、環境破壊を加速させ、人権の低下を引き起こしている。特にアマゾン盆地の一部の脆弱なグループへの影響が大きい。 >メタンフェタミン市場は、北米で拡大している。それに伴ってメタンフェタミン乱用による加療入院、薬物治療、過剰摂取による死亡が増加している。

II 地域ごとの現状（まとめ）3 アジア			
	需要	供給	主要課題
アジア	<ul style="list-style-type: none"> >世界でオピオイド使用者（乱用者）の推定数の半分以上がアジアにあり(地域の人口の1.1%)、南西アジアでの2022年のオピオイド使用の経験率は世界で最も高い(3.2%)。 >メタンフェタミンは東アジアと東南アジアで懸念される主な薬物である。他方、あへん系麻薬、特にあへんとヘロインは、南西アジアと南アジアで乱用が広がっている。また、中近東では「カプタゴン」が広がっている。 >メタンフェタミンの使用（乱用）は近年アフガニスタンで増加しており、メタンフェタミンと「カプタゴン」錠剤の使用（乱用）が中近東、南西アジアと湾岸諸国で増加している。 >東アジア、東南アジアには、ケタミンの非医療的使用のための市場が長年にわたって存在している。 >薬物使用の性差はアジアで最も大きく、過去1年間の大麻使用（乱用）者100人に91人が男性であった。 >アジアは世界で最も静脈注射による薬物乱用者数が多い(2022年には520万人)、その内280万人がC型肝炎に罹患している。また、静脈注射による薬物乱用者のHIV罹患率は南西アジア(29.4%)で、C型肝炎罹患率は東南アジア(65%)で最も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> >あへん系麻薬の生産は2023年に南西アジアでは、74%減少した。これはアフガニスタンでの生産量の劇的減少を反映している。東南アジアでは34%増加した。これら2つの亜地域は世界のあへん生産の3/4を占める。 >2022年、アジア全域でヘロインの押収が減少した。2023年には北部ルート沿いのヘロイン密売が増加した。 >アフガニスタンでは、麻黄の収集と販売を減らす努力にもかかわらず、近年、メタンフェタミンの製造が増加している兆候がある。 >中近東における「カプタゴン」の市場は増大し続けている。押収は2021年に過去最高を記録し、2022年も高水準が維持されている。 >東南アジアでは、メタンフェタミンが大量に製造されている。しかし、押収に関しては、2022年にはメタンフェタミンの押収量は減少した。 >近年のコカイン押収は、アジアへのコカイン密輸の地理的拡大を示しており、2019年から2022年にかけてこの地域で多数の大規模な押収が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> >2022年4月にアフガニスタンであへん生産が禁止されたことで、2023年のあへんの栽培と生産は劇的に減少した(95%の減少)。消費者市場でのアフガニスタンのヘロイン不足は、禁止令の施行が長期に持続し、ヘロインが一部の合成オピオイドなどのより有害な物質に置き換えられた場合、重大な結果をもたらす可能性がある。 >努力にもかかわらず、アフガニスタンで製造されたメタンフェタミンの市場は、西アジアやそれ以外の地域に拡大している可能性がある。メタンフェタミンの不正取引は、中近東で拡大の兆しを見せている。 >対照的に東アジアと東南アジアのメタンフェタミン市場は、近年観察された高水準から縮小の兆候を示している。 >多国籍犯罪組織は、ゴールデントライアングルのガバナンスと社会の不安定さを利用し、薬物密売だけでなく、野生生物の密売、違法な資源、採掘、金融詐欺などの社会的および環境的に有害な違法活動が多様化している。 >中央アジアとトランスコーカサス地方でのNPSの使用が増加し続けているという兆候がある。 >レバントで製造された「カプタゴン」錠剤は、湾岸諸国の大規模な消費者市場に供給され続けている。 >北アフリカと西アフリカでのトラマドールの非医療使用に関連するオピオイド危機は、近東と中東にも広がる可能性がある。 >南西アジアは、オピオイドの使用とHIV陽性の薬物注射者の罹患率が世界で最も高い地域の1つである。

II 地域ごとの現状（まとめ）4 ヨーロッパ			
	需要	供給	主要課題
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> >西ヨーロッパと中央ヨーロッパは、依然として世界で2番目に大きなコカイン市場である。 >アンフェタミン（ATS）は、コカインに次いでヨーロッパで2番目に多く使用されている覚醒剤である。 >ATSの使用は、過去10年間でこの地域で増加している。 >ヨーロッパは依然として「エクスタシー」の主要な消費者市場である。 >オピオイドは、ヨーロッパの薬物障害で治療を受けている者の主な薬物であることに変わりはないが、大麻はそれに近づいており、その使用は初めて薬物障害で治療を受ける者の間でより一般的薬物となっている。 >廃水分析データから、メタンフェタミン消費量は、何年にもわたる増加の後、2023年には西ヨーロッパ、中央ヨーロッパ、南東ヨーロッパで定常化する可能性が示された。 >NPSの使用が、東ヨーロッパで増加しており、大きな懸念事項となっている。 >東ヨーロッパは、薬物の静脈注射使用者率が他のどの地域よりも高い(2022年に1.3%)。また、薬物の静脈注射使用者ではHIV陽性率(25.6%)が最も高い。ヨーロッパでは薬物の静脈注射使用者のC型肝炎の罹患率も他の地域より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> >>大麻の不正取引は、西ヨーロッパと中央ヨーロッパでは主に地域内の問題である。しかし、北アフリカからこの地域へ大麻樹脂の輸入は依然として多い。 >西ヨーロッパと中央ヨーロッパは、合成麻薬、特に「エクスタシー」とアンフェタミンの製造の中心地であり続けている。また、メタンフェタミンの製造が拡大する兆候がある。 >世界のダークネットの薬物市場は、2021年まで拡大していた。近年、世界最大のロシア語ダークネット市場であるHydra Marketが2022年4月に解体され、新たに小規模なダークネット市場に取って代わられた。 	<ul style="list-style-type: none"> >コカイン使用量の増加という長期的な傾向は、COVID-19パンデミックの初期段階である2020年に一時停止したが、その後、西ヨーロッパと中央ヨーロッパで反転している。 >西ヨーロッパと中央ヨーロッパでは、大麻使用障害の治療を受けている者の数が長期的に増加している。2021年に初めて薬物治療サービスにアクセスした人のほぼ半数が、大麻の使用による治療を受けていた。 >東欧では、2021年にNPS市場が拡大したが、これはカチノンを中心とした薬物のオンライン供給の拡大によるものと思われる。これらの傾向は2022年と2023年も続いたという兆候がある。 >東欧における薬物注射者経験率とそのHIV陽性罹患率、そしてヨーロッパ全体における薬物注射者のC型肝炎罹患率は、重要な懸念事項である。

II 地域ごとの現状（まとめ）5 オセアニア			
	需要	供給	主要課題
オセアニア	<ul style="list-style-type: none"> >オーストラリアとニュージーランドの亜地域での過去1年間のコカインの使用（乱用）率は依然として世界で最も高い。 >しかし、コカインの消費量(廃水分析に基づく)は世界の他の地域よりも低く、コカインのほとんどの乱用者は時折使用していることが示唆される。 >オーストラリアとニュージーランドの亜地域での「エクスタシーMDMA」の過去1年間の使用（乱用）は、依然として世界で最も高い状態が続いている。これは廃水分析によるMDMAレベルと一致する。 >大麻使用（乱用）は、世界平均を大幅に上回っており、オーストラリアとニュージーランドの亜地域での使用（乱用）経験率は10%を超えている。 >15歳と16歳の学校の生徒の間での大麻使用経験率はオセアニアでは比較的高い。世界平均の5.5%と比較して17%である。 	<ul style="list-style-type: none"> >2021年にオセアニアでは、ヘロイン、の押収が増加したが、2022年には減少した。一方、コカインとメタンフェタミンの押収は2022年に記録的レベルに達した。 >メタンフェタミンはオセアニア内で生産されていると同時に東アジア、東南アジア、北米からこの地域に輸入もされている。 >P-2-P前駆体から製造されたメタンフェタミンの押収量が過去10年間で増加した。この事実は北米から（特にメキシコからまたは米国経由で）のメタンフェタミン密輸入の重要性が高まっていることを示唆している。 	<ul style="list-style-type: none"> >複数の薬物関連の指標によると、オーストラリアでは2010年から2021年の間にコカインの使用とそれに伴う害が増加したが、コカインによる害は他の覚醒剤によるものよりも低い。 >オーストラリアでは、メタンフェタミンの年間使用量は、一般の人々や「エクスタシー」の常習的使用者の間では減少しているが、静脈注射による薬物使用者の間では、使用がより集中的になり、より大きな害が引き起こされている。 >オーストラリアとニュージーランドで薬物関連障害で治療を受けている者の40%以上が、メタンフェタミン使用障害の治療を受けている。 >オーストラリアとニュージーランドの亜地域で薬物関連障害で治療を受けている者は比較的若く、特にオーストラリアでは60%が35歳未満である。

薬物市場、その推移、政策動向に関する世界的な参考資料である World Drug Report は、豊富なデータと分析を提供し、2024 年にはさまざまなオーディエンスに合わせたいくつかの要素で構成されている。ウェブベースの薬物市場のパターンとトレンドモジュールには、グラフ、インフォグラフィック、マップに支えられたユーザーフレンドリーなインタラクティブな形式で、医薬品の需要と供給のグローバル、地域、小地域の推定値とトレンドの最新の分析を含む。

「主要な知見と結論」の小冊子は、「薬物市場のパターンとトレンド」モジュールとテーマ別の「薬物に関する現代的問題」の小冊子で提示された分析から選択された調査結果の概要を提供し、また、Special points of interest fascicle は、これらの調査結果から引き出せる主なポイントと政策的影響のフレームワークを提供する。

「現代の薬物問題」は、特定の薬物市場における主要な動向と新たなトレンドの詳細な分析を提供するだけでなく、政策関連性に関する他のいくつかの動向にも注目している。この小冊子は、2022 年にタリバンがアフガニスタンでの麻薬の栽培、生産、密売を禁止したこと、そしてそれが国内および他の場所の輸送および目的地市場の両方でどのような意味を持つかを見るところから始まっている。これに続いて、薬物不正取引やその他の活動の収束と、それらが東南アジアのゴールデントライアングルの自然生態系とコミュニティにどのように影響するかを調べる章が続く。また、この章では、薬物の生産と不正取引が、法の支配に挑戦し、紛争を煽る他の違法経済とどの程度関連しているかを評価している。別の章では、薬物市場への参加者の性別と年齢を考慮すると、合成薬物の需要と供給のダイナミクスがどのように変化するかを分析している。この小冊子は、各国の非医療大麻市場に対する規制アプローチと合法化の影響に関する最新情報と、幻覚物質の監督されていない「準治療的」および非医療的な使用への広範なアクセスを可能にする環境のレビューに続く。最後に、この小冊子は、薬物使用の文脈における健康への権利に関する多次元のフレームワークを提供する。これらの側面には、可用性、アクセシビリティ、受容性、品質、差別の禁止、偏見・差別スティグマの排除、参加などが含まれる。

「World drug Report 2024」は、世界の薬物問題が健康、ガバナンス、安全保障に与える影響に対抗するための国際協力を強化するだけでなく、加盟国が薬物市場によってもたらされる脅威を予測し、対処し、その結果を軽減することを支援することを目的としている。

The World Drug Report 2024 is published on the UNODC website:
<https://www.unodc.org/unodc/en/data-and-analysis/world-drug-report-2024.html>